

RUBeC 演習 I に参加して

石田 結子

Yuiko ISHIDA

環境ソリューション工学専攻修士課程 2年

1. はじめに

私は2023年8月20日から9月4日に行われたRUBeC 演習 I に参加した。アメリカ合衆国カリフォルニア州のバークレーにある Ryukoku University Berkeley Center (RUBeC) を拠点とし、英語での発表に必要なプレゼンテーションや要旨提出に必要なライティングスキルの向上に努めた。また、ホームステイを通してアメリカの生活習慣や宗教観について肌で感じる事ができた。

2. 参加目的

私が RUBeC 演習に参加した一番の理由は、英語に対する苦手意識を少しでも無くしたいと思ったからだ。大学での研究を進めていくうえで、英語のスキルは論文を読んだり国際的な学会に参加したりと、なくてはならないものである。しかし、英語に対する過度な苦手意識があるため、できるだけ英語を避けて生きていた。今回の RUBeC 演習を通して英語で意思疎通ができたという成功体験を多く作り、今後の研究活動で使う英語にも積極的に挑戦していきたいと思い参加した。

3. 授業内容

3.1 語学学校での授業

はじめの1週間は語学学校の授業を受けた。前半は文法的内容で、後半はリスニングなどを含むコミュニケーションに関するものだった。文法的内容では関係代名詞を軸にした授業が行われた。文法的説明で重要となる「主語」や「目的語」といった単語も英語で説明されるため、はじめは全くわからなかったが、徐々にきつとこういう意味の単語なのだろうと単語を習得しながら文法的説明も理解できるよ

うになった。

授業の後半では、アメリカで有名な偉人や商品について読んだり聞いたりし、その後自分の尊敬する人や商品について話す練習をした。普段語学学校に通っている学生数人も一緒に授業を受け、積極的に発言している様子から、いかに日本人が控えめな民族であるかを感じる場にもなった。

3.2 プレゼンテーション

1週目の最終日と2週目は研究に関する要旨やプレゼンテーションに関する学習をした。要旨の添削では、事前に用意した英文を読んでもらい、文法的間違いや書き言葉と話し言葉に関する部分を修正していただいた。今まで学んできたイディオムが話し言葉ではよく使うがフォーマルな文章では使わなかったり、読み手と書き手の感じ方によって冠詞の使い方が変わったりと、個別に語学学校の先生が指導してくれるからこそ気付ける発見も多くあった。

プレゼンテーションでは専門分野ではない人が聞いて理解できる説明とスライドを意識して作成を行った。また、接続詞を多く習い、必要な部分に効果的に入れられるよう意識した。英語の波とイントネーションを練習するため、先生にプレゼン原稿を読んで録音させてもらい、何度も繰り返し聞いて呪文のように唱えて練習した。帰宅後は、同じホームステイ先の友人やホストファミリーにも手伝ってもらい、発音の練習をした。最終日の発表は浄土真宗センターの講堂で行い、全員が練習の成果を発表した。中にはユーモアのある自己紹介をしている人もいて、期間中自信がつくまで練習したのだと感じた。



図1 最終日のプレゼン発表の様子

4. 現地での生活

4.1 ホームステイ先の様子

2週間の滞在期間中はすべてホームステイの形式で、2人組もしくは1人で1つの家にお世話になった。私のホームステイ先はフィリピン出身のホストマザーとアメリカ出身のホストファザー、2人の娘が多くの人を招待している家で、私たちを含む計10人程度の生活を送った。到着時にはすでに2人の日本人留学生がおり、困ったことは日本語で相談できるという環境だった。また、別のホストファミリーとも仲が良いらしく、二家族合同での食事や週末を過ごすことも多くあった。食事は主にホストマザーとフィリピンから来て滞在している人が用意してくれて、毎日違うものを食べた。イメージしていた肉とポテトが多い食事というのではなく、インデカ米の焼き飯や揚げ春巻きのような料理の日も多くあった。他の国の文化にも興味があるようで、家

には日本や中国、韓国の人形が多く飾られており、週末に日本人留学生数人で巻き寿司を作ると、とても喜んでくれた。

仲の良いもう一つのホームステイ先のホストマザーは、平日の夜に教会のイベントに招待してくれた。初めて教会に行った私たちをみんなが快く迎え入れてくれ、様々な人と話す場となった。

4.2 週末の様子

週末は授業がなく、それぞれが観光を満喫した。私はアルカトラズ島とナバ・ソノマ地方のワイナリーを訪れ、歴史や景色を楽しんだ。また、ホストファミリーが教会の知人の誕生日会に行くというので、招待してもらおうと、アフリカ系の人が多くおり、アフリカ料理や音楽、会話を楽しんだ。同じアメリカ人でも食文化や話し方が少しずつ違うということを感じた。

5. おわりに

2週間の RUBeC 演習で、英語で簡単な会話ができるという成功体験を多く積むことができ、今後も英語に触れていきたいと感じるようになった。また、言葉だけでなく、生活習慣や宗教観など肌で感じ考えることができたのは、現地でしか得られない学びだったと感じる。この2週間で得た経験を忘れず、自分なりに活かしていきたいと思う。